



包括ゆのかわ

第14号 令和5年1月発行 函館市地域包括支援センター ゆのかわ 発行責任者 佐々木 康寛

日頃より当センターの活動にご理解とご協力を頂き、ありがとうございます。2023年は卯年。「卯」という字はもともと「茂」という字が由来とも言われ「春の訪れを感じる」という意味を連想させることから、縁起が良い年と考える説があるそうです。

長引くコロナ禍で失ってしまった経験やつながり等もあったと思いますが、卯年の今年は、そのもどかしさや悔しさを糧に、充実した1年になることを願っています。

今後も皆様からのご意見・お知恵を頂きながら、「住んでいて良かった」と思ってもらえる地域づくりに向け、真摯に取り組んでいきたいと思っております。至らない点もあるかと存じますが、今後ともどうぞよろしくお願い致します。



保健師 京谷 佳子

まずは相談『包括』へ

【住所】〒042-0932

函館市湯川町1丁目15番19号

【TEL】0138-36-4300

【FAX】0138-57-0080

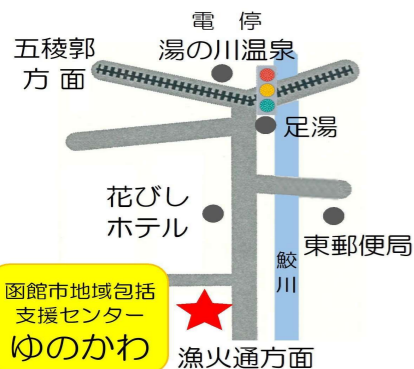
【相談受付時間】

8:45~17:30

月曜日~土曜日（日曜日は定休）

※休日・夜間は携帯電話に転送しており、お急ぎの場合などご相談をお受けしております。

※自立相談支援機関は、上記の【相談受付時間】のみの対応です。



外観



駐車場



相談室



多目的ホール

担当地域（東央部第一圏域）

川原町・深堀町・駒場町 湯川町1~3丁目・湯浜町 日吉町1~4丁目・花園町

人口：28,791人

高齢（65歳以上）人口：11,084人

高齢化率：38.5%（令和4年10月現在）

地域の集まりや勉強会へ出前講座で伺います！

各地域にセンター職員がお伺いし、福祉や制度等についてお話をさせて頂いております。ご希望の日時、内容に応じて伺っておりますのでお気軽にご連絡下さい。（※無料です）

受付担当：京谷・森

自立相談支援機関の相談例をご紹介します

生活保護に至る前に、自立した生活につながるよう生活費や仕事等に関する相談をお受けする、自立相談支援機関（高齢者以外の相談窓口）を設けています。令和4年4月の開設以降、実際に頂いた相談例をご紹介します。

障がいがある為 仕事に就けず お金に困っている。

（20代女性）



失業中で求職活動をしているが、収入も減り家賃が支払えなくなりそうだ。

（50代男性）



入院費を支払ったことで 次の給料日までお金が無く、食べるものがない。

（50代男性）



【家計支援】

訪問して面談をおこない障がい年金を受けられることを確認し、お金の心配がなく、生活できるようになった。

【住居確保給付金】

一定期間、家賃補助を受けながら住まいを失うことなく就職活動を継続し、再就職できた。 ※給付要件あり

【食料支援】

食料支援団体等と連携し 給料日までの間に必要な食料と飲料水を提供した。



上記の相談例以外にも、多様なご相談を頂いております。障がい・児童・就労等、様々な関係機関とつながりを持ちながら個々に合わせた支援を、一緒に考えていきたいと思っております。また、相談先がわからない困りごとでも、お話を伺い適切な関係機関へおつなぎする支援も行っておりますのでお気軽にご相談ください。



包括ゆのかわ 総勢13名です。よろしくお願いします！

上段：海老名 森 木村 佐々木



中段：福家 京谷 吉田 高木 小倉

下段：坂田 中野 庄子 安倍

編集後記

「ゆのかわ通信」をお読み頂きありがとうございます。広報紙を通じて、地域の皆様の生活に役立つ情報を発信していくと共に、センターの役割や機能を広く知って頂きたいと考えています。この広報紙がお気軽にお問合せ、ご相談頂くきっかけとなれば幸いです。

【広報紙委員】

福家 森 坂田 安倍 木村 高木 吉田

知っておこう！認知症について

認知症とは

記憶力や判断力が低下したり、時間や人・場所の認識が難しくなるなど認知機能の障がいが起こり、その結果、日常生活や社会生活に支障をきたす状態をいいます。

認知症は誰にでも起こりうるものです。2025年には65歳以上の約5人に1人は認知症になると言われています。今後、身近な病気となる認知症について、自分自身や家族のためにも、事前に正しく理解しておくことが重要になります。

加齢による物忘れ と 認知症のちがい

～加齢による物忘れ～

- ◇体験の「一部」を忘れる
- ◇「何を食べたか」を忘れる
- ◇「約束をすっかり」忘れる
- ◇「ヒントがあると」思い出せる

～認知症～

- ◇体験の「全部」を忘れる
- ◇「食べたこと自体」を忘れる
- ◇「約束したこと自体」忘れる
- ◇「ヒントがあっても」思い出せない



早期治療

が大切！

早期に治療を開始することで病気の進行を緩やかにできる場合があります。また、認知症の症状が軽いうちに今後の生活について見通しを立てるなど準備をすることができます。

認知症ケアパス配布中！



いずれも
無料です！

認知症サポーター養成講座開催中！



認知症ケアパスは「いつ」「どこで」「どのような」サービスを受けられるのか、認知症の状態に応じたサービス提供の流れ等についてまとめたものです。当センターでも配布していますので、ご希望のある方はお問合せ下さい。

当センターでは、認知症について正しい知識を持ち、温かく見守る「認知症サポーター」を養成する講座を行っています。ご希望の日時等に合わせ行っていますので、職場や学校、地域の勉強会としてどうぞご利用下さい。

地域の声から取り組んだ活動のご紹介

地域包括支援センターでは、より良い地域づくりの為、皆様と様々な地域の課題を検討する地域ケア会議を開催しています。今年度、地域ケア会議を通じて、東深堀町会と深堀町会、地域の小中学校と協働で地域活動を行うことができましたのでご紹介します。

◇地域ケア会議◇～お互いの課題を確認し、協力し合えることを共有～



2町会の皆様に加え、深堀小学校、深堀中学校の教頭先生にもご参加頂き、意見交換を行いました。様々な課題を共有した上で、東深堀町会で行っていた「もったいない市」を合同で開催することとなり

地域全体で
取り組むには？

深堀中学校を会場とすること
児童生徒にボランティアを依頼
することが決まりました。

「もったいない市」開催 令和4年9月11日（日） 深堀中学校体育館

子ども服、雑貨、食器など様々な品物が並び、多くの地域の方にご来場頂き「またやってほしいね」「良い活動」とご参加の皆様からのお声を聞くことができました。当日は準備から片付けまで小中学生、保護者の皆様にもボランティアとして活動にご参加頂き、多世代での取り組みができました。



『もったいない市』…不要な物を必要としている方へ無料でお譲りする催し

～この活動を通じて皆様から頂いたご意見～

- 地域のボランティアに参加したいので今後も情報がほしい。（児童生徒）
- 地域の皆さんと顔を合わせることで新たな関係を築くことができ良かった。（保護者）
- 地域住民が参加できる講習会等を開催できたらいい。（保護者・町会）
- 安心した地域づくりの為にこれからも一緒に取り組みたい。（町会）

・・・など



2町会合同の活動は今回が初めての試みでした。町会や世代の垣根を超えた活動について考える良い機会となりました。皆様の町会でも「町会の課題を検討したい」「多世代での地域づくりをしていきたい」等ございましたらお気軽に当センターにお声かけ頂ければと思います。